安全管理プロジェクト活動報告

○小山哲夫　笠原美久　加藤美佐　黒土優太　今野茉理奈　佐藤亜矢子　田中協子
徳永　誠　中島綾子　降矢久美子　結川達也　川原藤樹[*1]　川田良暁[*2]　小林邦宏[*2]　沼本啓良[*3]

物質・生命科学系　[*1]電気電子情報系　[*2]機械建設系　[*3]事務担当

１．はじめに

大学は、構成員の大部分が専門知識を持たない学生であるという点において、企業とは異なる安全管理が必要となる。本プロジェクトは、安全に係る技術的なサポートを全学に提供すべく、平成 22 年より活動をしている。今年度の活動状況を以下に報告する。

２．今年度の活動報告

・薬品管理システム(IASO)の管理・運用支援

IASOの管理・運用の支援を継続して行った。システム管理のほかに、薬品受入窓口で登録した毒劇物が、各研究室で二重に登録されていないかなど、IASOの使用状況についても定期的にチェックしている。また今年度はIASOのサーバ移設があり、これを支援した。

・安全管理かわら版の発行

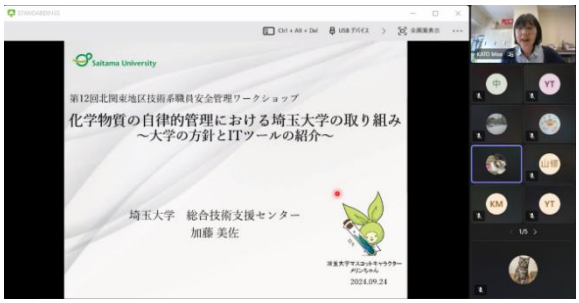
NPO法人教育研究機関化学物質管理ネットワーク(ACSES)が発行している「ACSESニュースレター」から、記事をピックアップした「安全管理かわら版」を、毎月発行している。今年度は、かわら版冒頭のトピック欄にて、「リスクアセスメント対象物健康診断の開始」や「電気火災防止への取り組み方」などを採り上げた。

・安全管理についての情報提供・意見交換

安全への取り組みに関しては、他大学との情報交換も重要である。昨年度に引き続き、「第 12 回北関東地区技術系職員　安全管理ワークショップ」をオンラインにて開催した。今回は「化学物質の自律的管理」をテーマとし、全 6 機関から合計 43 名の参加者があった。

また、高エネルギー加速器研究機構が主催する「第 22 回　関東甲信越地区技術職員懇談会」において、「埼玉大学安全管理プロジェクトの紹介」と題した発表をオンラインにて行った。

これらの場において、活発な議論が交わされ、各機関の安全への関心の高さがうかがえた。



図．「安全管理ワークショップ」における発表

・法令改正への対応

「労働安全衛生規則等の一部を改正する省令」により、化学物質の自律的管理が求められ、本学でも今年度よりリスクアセスメントと安全教育が義務化された。これらに向けて、昨年度末にリスクアセスメントの講習会やマニュアルの整備を行った。また、化学物質の自律的管理を踏まえた、「安全管理ガイドライン」の整備が必要となり、事務側の担当者と本プロジェクトメンバーが協力して、作成にあたった。

・学科の安全教育への支援

工学部応用化学科からの依頼で、今年度も学生実験ガイダンスにおける安全教育の講師を務めた。今年度から学生実験においても担当教員がリスクアセスメントを実施しているため、リスクアセスメントについての説明も簡単に含めた。

上記で示した活動以外にも、ヒヤリハット情報のオンラインでの収集に向けて準備を行った。

３．今後の展開

大学の作業場では様々な状況が混在しているため、各現場に即した安全管理の工夫が必要である。そのため、外部の研究会への参加や他機関からの情報収集などを積極的に行い、適切な情報を学内に提供できるよう努めたい。そして、教員・学生を技術面で支援する技術職員として、今後も継続して学内の安全管理に貢献してゆきたい。